

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 舞踊集団菊の会
公演団体名	舞踊集団菊の会

### 内容

民謡を踊って日本のリズムを体感しよう！！

1時限目は全校生徒、2時限目は代表生徒を対象に行います。

1時限目：全校生徒対象に、手拍子や掛け声で民謡のリズムを楽しみます。  
そして、実際に踊ってみて体感してもらいます。

2時限目：代表生徒に、本公演で踊ってもらう「八木節」を練習します。

### タイムスケジュール（標準）

開始1時間前に学校入り。（体育館にて準備、打合せ等）

1時限目 全校生徒

休憩

2時限目 代表生徒

### 派遣者数

5名

### 学校における事前指導

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## 本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 舞踊集団菊の会
公演団体名	舞踊集団菊の会

演目
『民俗芸能の魅力に迫る』
① さなぶり荒馬（青森県） ② 鹿踊（岩手県）
【ワークショップⅠ】 装束を実際に触ってみる 今 舞台をつとめた鹿踊の扮装を外しながら、頭（かしら）や太鼓を代表の生徒さんに持って頂き、実際の重量感を体験して頂きます。
③ 鬼剣舞“一人加護”（岩手県） ④ 百姓おどり（岩手県） ⑤ 飾山囃子（秋田県） ⑥ 傘おどり（鳥取県） ⑦ 銭太鼓（島根県）
【ワークショップⅡ】 日本の楽器の音色を体感 日本の伝統的な楽器を紹介。（三味線・太鼓・締め太鼓・笛・鉦）
⑧ 阿波踊り（徳島県） ⑨ 八木節（群馬県） 代表の生徒さんも踊ります。

派遣者数
18名

タイムスケジュール（標準）
9:00 学校入り・体育館にて搬入・仕込み
13:30 本公演 開演 内 10分休憩
15:00 終演 撤去
16:30 退出
※10:30以降に、体育館にて代表生徒リハーサル(約30分)を行います。

実施校への協力依頼人員

## 演目解説

全曲、生演奏により 日本各地に伝わる民俗芸能の持つ魅力に迫ります。

① さなぶり荒馬(青森県)

田植え後に、豊作や害虫駆除を祈願して奉納した芸能。

馬の他、獅子や猿も登場して賑やかな囃子で、客席後方から生徒の中を通して舞台まで楽しく入場します。

② 鹿踊(岩手県)

長い腰指(ささら)を背負い、腰に付けた太鼓を激しく打ち鳴らし 念仏調の踊り唄を自ら唄いながら勇壮に踊るダイナミックな芸能です。

### 【ワークショップⅠ】

今舞台をつとめた鹿踊の扮装を外していき、装束や道具の解説をしながら

頭(かしら)や太鼓を代表の生徒さん2~4名につけてもらい、重量感を体験して頂きます。

③ 鬼剣舞“一人加護”(岩手県)

鬼面(仏の化身)を付け、刀と扇を扱いながら勇壮に踊ります。鬼剣舞の数ある演目の中でも“一番庭”“八人加護”と共に剣舞を代表する演目です。

④ 百姓おどり(岩手県)

五穀豊穣を祈願して奉納されてきた踊りで、一年間のお米作りの中で伝統的な作業の様子をコミカルに踊ります。鍬、鎌などの小道具の他、うずまき傘を脱穀機に見立てるなどして楽しい踊りからお米作りに興味を持って頂ける一曲です。

⑤ 飾山囃子(秋田県)

飾山という人形などを飾った山車の上で演じられてきた芸能で、秋田の祭礼に娘たちが華やかに踊ります。

⑥ 傘おどり(鳥取県)

雨乞いの為に踊られたのが始まりとされるこの踊りは、鈴と色紙で飾った傘を廻しつつ、元唄“貝殻節”にのせて踊ります。

⑦ 銭太鼓(島根県)

竹の筒の中に古銭を入れて両端にふさを付けた楽器を打ち振って、文化文政の頃(1804~29)から盛んに唄われてきたと言われる“隠岐相撲取節”にのせてリズムカルに踊ります。

### 【ワークショップⅡ】 日本の楽器の音色を体感

日本の伝統的な楽器を紹介。(三味線・太鼓・締め太鼓・笛・鉦)

⑧ 阿波踊り(徳島県)

築城の祝いに城主が、武士も町民も隔てなく踊らせたのが始まりとも言われています。日本三大盆踊りの一つです。

⑨ 八木節(群馬県)

提灯、すげ笠、花笠、唐傘等を扱いながら活気のある囃子と唄で明るく賑やかに踊ります。

この曲をワークショップ代表生徒さんにも踊って頂きます。

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

体育館にて舞台下のフロアを使い、近い距離で民俗芸能の踊りを鑑賞して頂きます。開演と同時に演者が客席の合間を踊りぬけて一気に舞台へと引き込み、曲目解説などを入れながらテンポよく展開していきます。

### 児童生徒とのふれあい

演者が客席内へ入っていくことで（さなぶり荒馬・百姓おどり・阿波踊り）、より身近に装束やかぶり物、楽器を体感してもらい、代表の生徒さんに実際に踊りで使っていた鹿踊の装束（鹿頭など）を付けてもらいその重さを体感したり、日本の楽器の音色と共に踊りを手拍子をしながら観て聞いて一緒に舞台を創っていきます。